



関東は 9 月になってから台風に見舞われることが多いのですが、今年は夏休み中からはっきりしない天気が続きました。

9 月も相変わらずの天気で、「中秋の名月」は曇天の天候のほんの一時・・・眺められた方、いましたか？

* 鍛金実習 (9 年生) *

9 年生の課題に鍛金があります。銅をたたくことで成形し作品を作ります。そのための、道具と製作スペースと講師が必要となります。そこで、1 期生の時から藤野にあるシュタイナー学園高等部で場所と道具をお借りして、藤野の鍛金を指導なさっている日比淳史(ひびきよし)先生にお願いして集中講座を行っています。

今年も 7 月 19 日～24 日(中日の 21 日はお休み)の 4 日間の 20 時間で仕上げる予定で、藤野にお邪魔しました。19 日、20 日は藤野もまだ学期中ということもあり、「せっかくなので一緒に 9 年生のエポックをしませんか。」というお申し出をいただきましたので、一緒に地理のエポックを受けさせていただきました。初日は 9 年生がランチ会に招いてくださったり、2 日目は生徒会の皆さんがピザを焼いてくださったりしてわずかな時間でしたが交流をすることもでき、進学先を決めるためのよい機会となったと思います。

1 日目はエポックの後 10 時半から工芸室にて日比先生とお会いして、簡単な自己紹介をした後、具体的に道具や作業工程の説明をしていただきました。銅を加工するという事はわかっていましたが、一枚の銅の板から器を作ると聞いて「一体どうすれば平面が立体になるのだろう?」と思ったようです。先生は「型をあててたたいて変形させます。」と簡単におっしゃいました。先生が実際に手本を見せてくださったのですが、「見る」と「やる」では大違い。(と思ったのは実は私だけだったようですが…)銅との闘いが始まりました。

銅板から直径 15 センチの円を切り出し、縁をやすりで滑らかにして丸みのある木型の上に板を置き、上からシュモク槌という木槌でたたいて丸みを付けます。その後、一旦全体を高温の火で焼き、希硫酸につけて加工しやすくします。昼食前までに 6 人がそこまで終わらせることができました。



昼食後はいよいよ当て鉦を当てて金槌でたたくことでどんどんと銅を絞って器型にする作業に入りました。直径 15 センチで始まった銅板を直径 10 センチの器型にするのです。ひたすら打ち続け、全体を打ち終わったら又焼いて希硫酸につけるという作業を繰り返します。しかし思ったように丸まってくれなかったり凸凹になってしまったり。その一方で「おお、いいねえ。初めてとは思えないよ。」などと先生から絶賛されている人もいて、1 日目が終わるころには工程にずいぶん差ができました。「初めてなんだからうまくいなくて当然。これだけ出来れば上等。明日はもっと付き合い方がわかるから。」と励まされ、帰途につきました。

2 日目、要領をつかんだ人たちはどんどんと作業を進めていきました。1 日目苦しんだ人たちもだんだんと要領をつかみペースが上がっていきます。2 日目が終わる時点でほぼ 10 センチまで絞りあがった人が半分いました。

そして 1 日休んだ 3 日目。「今日で完成する人もいるかもしれませんが、明日もあるので焦らずいきましょう。」と日比先生。すると「一番怪しいのは黒沼先生ですね。もし一人だけだったら、明日は一人で来てくださいね。」との声。「そんなプレッシャーかけないでよ〜。」と言いつつ作業を始めました。

初日から安定した作業を続けてきた人たちの作品は先生をうならせる仕上がりとなっていました。そして追い上げ組も尻上がりに調子を上げ、最後の表面の仕上げ、名前の刻印とどんどん作業が進み、なんと本当に 3 日目に全作業を終わらせてしまったのでした。3 日目に体調を崩しながらも頑張っていた生徒がいたこともあり、3 日目で終わりにしたい気持ち全員にあったと思います。わたしもなんとか仕上げる事ができて、4 日目一人で行かずに済みました。

最後に日比先生から「最初からよく集中し、作業も丁寧で、道具の扱いにも細心の注意を払ってよく頑張りました。そしてこの出来上がり。しかも 15 時間で仕上げた。人数が少なかったから道具を待つ必要がなかったということ差し引いてもちょっと自慢していい出来だとおもいます。」とお褒めの言葉をいただき、大満足の 5 人でした。

(9 年生担任 黒沼亜矢)

第2回ユネスコスクール神奈川県大会

学園は8月27日、10年余の歴史の中で画期的な場を迎えました。神奈川県内のユネスコスクールが集まる第2回の大会が十日市場校舎を会場として開かれ、県内小中高校の校長や先生、横浜市教育委員会、大学関係者、ユネスコ関係者などおよそ60人が訪れてくださいました。深い議論が展開されましたが、一方で対外的に学園を神奈川の教育界にお披露目するオープンデイのような貴重な一日ともなりました。

学園がパリのユネスコ本部から「持続的な社会の担い手をはぐくんでいる学校」、つまりユネスコスクールとして認められ、霧が丘校舎の玄関に「ユネスコスクール」のプレートが掲げられてから5年になります。

国内でユネスコスクールが急速に増えてきた中で、神奈川県内のユネスコスクールがネットワークをつくるようになり、学園もその中に入っています。ここに連なる他校の校長や先生方は本当に素晴らしい方々ばかりで、組織の論理ではなく、胸の奥からわき上がってくる「持続的な社会を子どもたちに渡したい」という思いで活動しているらしいです。NPOが運営する学園にも分け隔てなく交流して下さり、シュタイナー教育にも関心を寄せてくださっています。今年の大会は学園が会場に選ばれました。それも学園に対する信頼あってこそです。こんな温かい教育のコミュニティがある県は全国でもほとんど例がないことを知ってほしいと思います。深い議論も展開されていて、横浜市立永田台小学校の住田校長は27日のあいさつで「神奈川の大会は全国大会より上だ」と言い切っていました。来賓あいさつなど形式にこだわりがちな全国大会にはあまり魅力を感じませんが、27日のプログラムは実にわくわくする内容でした。

大会は東海大学教養学部との共催で、神奈川県教育委員会や横浜市教育委員会、ユネスコアジア文化センター、日本ユネスコ協会連盟、神奈川県ユネスコ協会連絡協議会の後援をいただきました。

当日は受け入れ校として横山先生の挨拶から始まり、韓先生によるアイスブレイクで出だしから参加者の笑顔が広がりました。ドイツからヴァルドルフ教育者のマーティン・ローソンさんをゲストとして招きましたが、それには理由があります。ユネスコスクール各校が持続可能な開発のための教育を進める中で、子どもの発達段階とまったく合わないカリキュラムが多いのです。あくまで成長段階に見合った教育を、とアピールできる学校こそが学園です。第一人者であるマーティンさんの講演は内村先生の素晴らしい通訳もあって大変好評でした。

第2部のパネルディスカッションも素晴らしい内容でした。学園事務局の佐藤さんの司会で「地域資源とネットワークで育てるESD」というテーマで、登壇者は小林先生、学園がいつもお世話になっている「にいほる里山交流センター」の吉武さん、ユネスコスクールの校長先生と教務主任の先生の4人が登壇しました。にいほるの森というかけがえのない資源を守り、地域に開放してきた吉武さんたちの取り組みと学園の学びが共鳴しあっていることを再認識できた素晴らしい内容でした。

お昼休みは霧が丘校舎の見学と、2期生のガリレオ劇ダイジェスト版DVDの鑑賞という2つのプログラムを用意し、いずれも好評でした。

午後は韓先生による全員参加のワークショップ「もしも世界が100人の村だったら?」。圧巻でした。貧困・格差という重いテーマについて、時には笑いながら圧倒的な現実感で体感する。参加者には大きな気づきとなって、また衝撃となったようです。横浜市内の小学校のある若手の先生は「これ、本当に学級でやりたい…」とつぶやいていました。

振り返りでは玉川大学の小林先生、東海大学の小貫先生、聖心女子大学の永田先生という、昔からの学園の応援団ともいえる方々から素敵なメッセージをいただきました。懇親会で永田先生からは「各学校のみなさん、日々の実践で迷ったら横浜シュタイナー学園に学びに行きましょう」との名言も飛び出しました。

全体として、一方的・座学ではなく双方向、全員参加型、体験型の学園ならではのプログラムを提供できたと思っていますし、参加者の学園に対する共感も一層いただけたようです。この人脈は学園が神奈川で教育活動を展開する上で必ずや生きる機会があると思っています。現に市教委の担当の方や、学園の子どもが多く通っていて学籍の面で課題がある小学校の校長先生も当日足を運んでくださいました。

なかなか当グループの活動は目に見えにくく分かりにくい面もあるかと思いますが、日ごろの地道な人間関係の構築が大きいです。今後も種をまき続け、人脈を広げていきます。学園だけ、自分の子どもだけがいい教育を受ければいいというのではなく、学園から刺激を受けた公立私立の学校も、よりよい教育へ変わってほしい。そのきっかけになったらとも思っています。

(ユネスコグループ 8年保護者 所澤新一郎)



全国のシュタイナー学校よ、つながろう！

広い図書室の開放的な窓から、白樺の梢越しに噴火湾の美しい風景が広がる。8月、絶景にたたずむ北海道シュタイナー学園に、全国から約30名の教員・運営者が集まった。毎年、春と夏に開かれる日本シュタイナー学校協会の定例会議。全国7校から人が集まる。

年2回とは言え、生徒募集や様々な運営上の話題は各校とも切実な共通テーマであり、それぞれの報告が深い共感をもって受け取られる。とくに3.11以降の入学者の低迷は、各校が危機感を共有してきた。そんななか、サマースクールやホームステイ体験など、各校の個性的な取り組みからの学びも多い。授業料、児童募集、学童のあり方など、よき力をもってきてきた。そして夜には懇親会があり、ときには微妙な話題も共有しつつ、各校の運営者は次の再会を約束しあう関係で帰って行く。

そんな信頼関係のなか、各校の連携なしには実現できないプロジェクトも実を結んできた。2015年のアジア・ヴァルドルフ教員会議の大きな成功はまだ記憶に新しい。毎年、夏に開催される教員研修は、今後の新設校を支援する役割も負う。まだ構想の段階だが、連携型教員養成が始まれば、教員資格の共通ガイドラインづくりも始まるだろう。新法の動きへの取り組みは、協会なしにはあり得ない。独自の教育を法律がカバーするためには、ア kredィテーションと呼ばれる相互認証が求められるだろう。そこで、国際的なシュタイナー教育のガイドラインが生きてくる。国際指針づくりに取り組む国際ヴァルドルフ教育会議には、毎年、日本の協会からも代表を送っている。

そして2019年。シュタイナー学校誕生100周年の年。その祭典に向けた準備が世界で始まっている。2017年の日本のシュタイナー学校誕生30周年はそこへのステップだ。世界中が100周年に結集する歴史の鼓動を、教員も保護者も子どもたちもともに感じられたら。そんな思いで今、この活動に関わっている。日本シュタイナー学校協会 <http://waldorf.jp/>
(事務局長 佐藤雅史)



野球部合宿 & 3校試合

去る8月22日夜～24日、野球部合宿に参加してきました。

台風の影響もあり、22日は夕方から学園に集合し、ミーティングをして翌日に備えました。23日は若葉台グラウンドで終日練習でした。子どもたちは、疲れた顔も見せず、本当に気持ちいいくらい一生懸命白球を追いかけていました。一方で、生活の場である十日市場校舎に戻ると、お互いに楽しくじゃれあってみたり、とても少年らしい一面を見る事ができました(後で聞いたところによると、夜更かししていた子がいたとかいないとか、...)。最終日の24日は、横浜、賢治の学校、藤野の野球部とで3校合同試合を行いました。初戦は藤野に負けて、第2試合で賢治の学校に勝利し、1勝1敗でしたが、子どもたちは随所に好プレーを見せてくれました。外野フライを立続けに捕ってチームを勢いづけた主将、ピッチングで苦しんだ分をランニングホームランで取り返した副主将、他にも、強肩キャッチャーを相手に盗塁を成功させたり、献身的なカバーリングで相手にプレッシャーをかけたり、と、書き出したらきりがなくらいでした。新入部員の7年生の活躍も見逃せませんでした。毎打席のようにヒットを量産して攻撃を勢いづけたり、目の覚めるようなピッチングを披露したりと、今後の成長が楽しみです。

末筆になりますが、合宿中ずっと子どもたちに付き添ってくださった先生方、合宿を全面的にサポートして下さった保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。

(野球部コーチ 7・5年保護者 黒野康生)



公開イベント「親子でむかえる アドヴェントの集い」

日程：11月27日(日)

時間：10:00～14:30

場所：霧が丘校舎

内容：クリスマスのお話/ライアー演奏
/ワークショップ/人形劇/手作り品
販売/アドヴェントカフェなど
※最新情報はHPでご確認下さい。

連続講座「世界とつながる シュタイナー学校の手仕事」

◎思春期の子に伝えたいもの

⑤11月6日(日)10:00～12:30

⑥12月4日(日)13:30～16:00

講師：神田昌実(2年生担任・手仕事)

場所：霧が丘校舎

料金：1コース(2日間)3,000円(会員割引有)

*材料費実費(500～700円)

※用意する持ち物などあります。詳細はHP
でご確認の上、事前にお申し込みください。

公開講座「日本の建築史」

①7月5日(火)

②10月25日(火)

③2017年2月7日(火)

※10月の日程に変更があります。

時間：10:00～12:00

講師：岩橋亜希菜(建築家)

場所：霧が丘校舎

料金：2,000円(NPO会員1,500円)

*保育はありません

8年生劇「十二夜」

日時：2017年2月3日(金)・4日(土)

時間：午後

場所：鶴見公会堂

※観劇年齢に制限があります。

詳細・予約方法は12月頃HPでご案内
します。ご確認下さい。

インフォメーション

2017年度入学説明会第1次の

申し込みは全て終了しました。

2次・3次入学・編入希望者説明会の開催、
募集学年等は1次申込者の面談・結果が
決定後、募集がありましたら11月中旬以
降にホームページ等で順次告知してい
きます。

大人のオイリュトミー

Aコース：健やかな体作り

講師：猿谷利加(オイリュトミー専科)

10/3,11/7,12/5,2017年1/23,2/13

Bコース：音と一緒に体を動かす

講師：大西敬子(オイリュトミー専科)

10/17,11/21,12/12,

2017年1/30,2/20

時間：9:30～10:45

場所：霧が丘校舎

料金：1回1,500円

(NPO会員1,300円)

※詳細はHPでご確認の上、事前
にお申し込みください。

ご寄付ありがとうございます

一般寄付(7/20～9/13)

茶話会参加者有志、フリマde寄
付、星の金貨、鴨狩香代子
よこはま夢ファンドを通して
(6/1～7/31)

豊田茂芳、足立久美子、千原遠見
彦、隅田都保美、伊津野久紀、田
中巖、小林淳志、中島憲次

～皆様からのご寄付は大切にに使
わせていただきます～

茶話会/校内見学会

茶話会

11/7(月),2017年2/11(土祝)

校内見学会

10/21(金),11/18(金),

2017年1/20(金),2/17(金)

参加費：無料

※日程により時間が異なります。

詳細はHPでご確認上、事前にお申
込みください。

学外イベントに参加します

その1・

イベント名：緑区民まつり2016

日程：10月16日(日)

10:00～15:00

場所：四季の森公園

その2・

イベント名：ベジ&フォーク・
マーケット

日程：11月6日(日)

10:00～16:00

場所：麻生環境センター

※詳細は各HPでご確認の上、
ご来場ください。

星の金貨

季節のポストカード・ハーブティー・木
工品・編みぐるみ・書籍など取り揃えて
お待ちしております。どうぞお立ち寄りく
ださい。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

http://hosinokinka.blog100.fc2.com/

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第94号

2016年9月27日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします

お問合せ、お申込み先 横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(せにわり店)当座0130702